

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,282	t-CO ₂
①を除外した温室効果ガス換算排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素 (③を除く。)		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素 (発電所等配分前)		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量 (①~⑩合計)		2,282

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
温室効果ガス総排出量	2,061	t-CO ₂	2,030	t-CO ₂	2,138	t-CO ₂	2,371	t-CO ₂	2,282	t-CO ₂
削減率 (対 基準年度)			1.5	%	▲ 3.7	%	▲ 15.1	%	▲ 10.7	%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率 (対 基準年度)						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
原単位あたりの排出量										
削減率 (対 基準年度)				%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率 (対 基準年度)						%		%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価 (目標の達成/非達成の理由)

名古屋港自体の港勢はコロナ前に戻りつつあるがタグボートの稼働数は戻って来ていない環境であり、強風時など作業が重なった時に稼働率を上げるため燃料消費率が上がる事が多くなっている。また、船員の増員と雇用対策において一人部屋の社員寮を整備したことで電気、ガスの使用量が増加となっている。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
タグボート主機での燃料消費削減	主機運転に関わる燃料消費量をモニターし、出来るだけ回転数を上げない事と効率的な配船を行い燃料消費の削減を目指す。	定性的なモニターと現場へのフィードバック、並びに実績を踏まえての毎年の目標値(KPI)設定	経済的な運航はできているも作業があるときに数を熟さなければならず未達となる場合が見られる
節電	昼休みの際の事務所内消灯の励行、無人箇所の小まめな消灯、及び冷暖房使用時の事務所ドアの閉鎖	総務部を中心に実施	取組は継続維持できている
省資源	事務所からの一般廃棄物(可燃ごみ)削減努力と、紙リサイクルの推進	総務部を中心に実施 ゴミ・リサイクルの排出量モニター	同上
教育・訓練	環境ボランティアへの参加を通し、社員全般の環境意識の向上に努める。	環境ボランティアへの参加	同上
環境活動の推進	各船環境推進委員会の月例報告を基に環境活動を推進する	船内業務委員会の実施	同上

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目（令和 6 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

曳船4隻に燃料消費目標数値の設定を行い各船に目標数値に向けて効率をあげる努力を促している。4隻合計の主機稼働時間は昨年度より256.5時間減少、燃料消費量は34.0KLの減少となった。燃料消費率で見ると4隻中で1隻のみが1年を通しての平均値で目標数値を達成したが前年比でみた場合には目標値に届かなかった3隻中の2隻の燃料消費率が上がる結果となっています。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

上記6の通り